

# BELL

<編集・発行>No.225 2022/10/24 発行

編集：一橋大学附属図書館

学術・図書部 学術情報課

電話：042(580)8247

Mail：lib-contents@ad.hit-u.ac.jp



## 本学研究成果のオープンアクセス化を促進する

### 10/24(月)~30(日)は オープンアクセスウィーク

学術研究とその普及をそれぞれの立場で担う、研究者、学生、大学・研究機関、学会、学術出版社の間で、オープンアクセスについての認識を共有し、その促進を図ることを目的として定められた国際的な週間です。

### オープンアクセスって何？

インターネットを通じて研究成果を無料で公開し、世界の人々が、対価なくこれを楽しむようにすることです。学術雑誌の価格上昇により、入手困難となった学術情報を研究者の手に取り戻すことを目的としています。



今年のテーマは  
Open for Climate  
Justice



### オープンアクセスの メリットは？

論文を探す側には、無料で読めるというメリットがあります。研究者本人や所属機関の経済力に依らない、公正な学術環境を創出することができます。論文を公開する側にもメリットがあります。論文の可視性が向上することで論文の閲覧数が増加し、引用される可能性が高まります。

### オープンアクセスにするには？

- 著者が機関リポジトリで論文（多くは著者最終稿）を公開する。
- 著者や団体が出版社に論文出版加工料（Article Processing Charge: APC）を支払う。

という方法があります。

### 一橋大学での オープンアクセスの取組みは？

本学では、一橋大学オープンアクセスポリシーの下、機関リポジトリ HERMES-IRにより、研究成果のインターネット上での無料公開を促進しています。本学に在籍する研究者や博士課程の大学院生は、学術雑誌掲載論文や博士論文などHERMES-IRに登録することができます。



一橋大学機関リポジトリ  
HERMES-IR



<https://hermes-ir.lib.hit-u.ac.jp/ir/index.html>



### 世界の動きは？

近年では、研究データを含めた研究プロセスのデジタル化と共有を目指す「オープンサイエンス」が世界的な潮流となっています。研究機関等で、研究データの管理・公開に係るポリシーの策定、体制の検討、基盤の構築、検索サービスなどに対応することが求められています。



### 展示開催中！

10/24(月) ~11/18(金)

図書館1階Yomoccaコーナーでオープンアクセスの情報を紹介しています。ぜひご覧ください。

★研究データをテーマに実施した教員インタビューの内容は裏面にあります！！



# 「研究データの管理・利活用」

国の政策として、研究活動における自由や多様性、オープン・アンド・クローズ戦略などに配慮しつつ、大学等において研究データの管理・利活用を進めていくことが求められています。実際の研究活動や、分野による違いなど、推進するにあたっての期待や問題点についてお話いただきました。

## 中山 能力 教授（経済学研究科）



自分の研究分野は数学で、研究データというと文書ファイルがメインになります。アイデアなどを書き留めた個人的なメモなども研究データに含まれるということであれば、それを管理・利活用するためには、ある程度整形しなくてはいけないので、あまり現実的ではないように感じます。

数学の分野においては、何百というアイデアのうち、証明が成り立ち、最終的に論文になるものが、ほんの一部であることが少なくありません。ただ、ある方法では証明ができなかったということは、それも1つの情報になるので、没になった証明やアイデアなどの論文にならなかった情報が、研究データとして公開されることには、それなりに意味があるのではないかと思います。しかし、その場合でも、公開用に整形するという労力と、それが本当に有益な反例等であるかといった質の保証も必要になってくると感じます。

論文情報に関しては、リポジトリで公開することに大きなメリットを感じているので、研究データに関しても、公開すべきデータを多く持つ研究者にとって、公開したいと思えるような仕組みや案内ができることを期待します。



## 小峯 庸平 准教授（法学研究科）

自分は文献を収集して、それを読んで研究ノートを作るという研究スタイルです。特にデータの管理において不便は感じていませんが、管理のための統一されたプラットフォームのようなものが、機関から提供されるのであれば、セキュリティなど安心できる面もあると思います。ただし、データを載せる手順が面倒だと、結局手元にデータがたまっていくことになるので、手順も重要だと思います。

データの公開や利活用となると、基本的に研究ノートなどは開示することを目的として作成しているわけではないので、正直なところ少々困るなという印象はあります。また自分の場合は、研究ノートに研究用の内容と授業用の内容が含まれているため、研究用の部分だけを抜き出して、管理・公開するというのは、大変な作業になります。研究が論文になった後で、データを公開する際に、他人が見てもわかるような形にデータを再形成しなくてはいけないという点が障壁になると、「だから公開はやめておこう」という流れができてしまうのではないかと思います。

それでもやはり研究データの公開・利活用は、意義があることだと認識しています。自分の研究データを利活用に供することは、実際には難しいと思う反面、他の研究者のデータを見てみたいという気持ちは強くあります。例えば収集したけれど使わなかった文献や、調査はしたけれど、使わなかったデータを見てみたいと思います。また、できあがった論文について、どこで最初に着想を得て、どう進んでいったのかという研究のプロセスや痕跡がわかるような資料があったら、学説史の探究のためには役に立つと思います。



HERMES-IRは、本学のオープンアクセス方針や学術情報流通の動向に沿いつつ、本学研究成果のオープンアクセス化を支援しています。インタビューにご協力いただきました先生方、ありがとうございました。